



自助・共助・公助
で支え合う地域に



1.復興ボランティアに参加し、被災地の片づけ等を行うルリー口福岡。三つの共助を基盤に、市民全体でうきは市を色々な面から支えていることがわかる 2.浮羽消防署職員とうきは市役所職員で防災活動の一環として土嚢作成訓練を実施 3.自治協議会および行政区にて浮羽消防署とDIG訓練(災害想像力ゲーム) 4.福岡県庁職員と災害アドバイザーの3者による現場立ち合い



経緯

平成12年4月8日 供用開始

令和3年6月11日 「防災道の駅」に選定

令和4年3月25日 防災拠点自動車駐車場に指定

防災対策の三助

災害への備えを考えると、「自助」「共助」「公助」の3つに分けることができます。「自助」とは、災害が発生したときに、まず自分自身の身を守ることです。この中には家族も含まれます。「共助」とは、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うことをいいます。そして、市町村や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助が「公助」です。

毎年のように豪雨等による被害が発生し、復興が厳しい箇所もありますが、受け継がれてきた助け合いの精神は今も強く根付いています。

case.3 災害復興

Disaster recovery

「道の駅うきは」は、2021年6月に福岡県で唯一の「防災道の駅」に認定されました。地域住民や訪問者の安全を守る防災拠点として、大規模災害時には避難場所や復旧活動の拠点として機能します。平常時に利用されるベンチは、災害時にかまどとして活用可能で、被災地に運搬可能なコンテナトイレや備蓄品など、実用的な設備が整えられています。広い駐車場は、緊急車両の停車や物資集積の場としても活用されます。

また、「道の駅うきは」は観光拠点としても人気があり、令和5年には1年間で126万人もの来場者が訪れました。うきは市の豊かな自然や特産品を楽しめる場として親しまれており、新鮮な農産物の直売や地元の食材を活かしたグルメ、観光案内を通じて、多くの人々に地域の魅力を発信しています。

令和7年4月に25周年を迎える「道の駅うきは」は、防災拠点としての役割と地域活性化の中心的存在という二つの側面を兼ね備えた場所です。